

“歯を守れ！ 予防歯科に命を懸けた男” 日吉歯科診療所・熊谷 崇の挑戦

医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック 理事長 大久保恵子

今回、NHKのプロフェッショナル、カンブリア宮殿に続き、このような書籍が出た事により、より深く日吉歯科診療所の取り組みやその考え方に触れる事が出来た。当院ではこれまで、オーラルフィジシャン育成セミナー受講に加え、毎年スタッフ全員で酒田市で行われるオーラルフィジシャンスタッフミーティングにも参加している。院内ではもちろん、サリバテスト、MTMを実施し、予防の啓蒙を患者に行うと同時に、オーラルフィジシャン診療室に相応しいと思われるスタッフ教育にも力を入れて来たつもりだ。

実際、取り組み始めてから約7年が経過しようとしている今、以前に比べて「歯科医」の仕事が楽しく充実してるし、患者さんからの感謝の言葉や「もっと早く来れば良かった」と言っていただけの事も多く、仕事に誇りを持てる。

それにもかかわらず、この本を読んで私は大きなショックを受けた。この本により、日吉歯科や熊谷先生の生き方を知るに連れ、私の診療室ではただ「フォームを真似しているだけはないか？」という疑問が膨らんだからである。姿は真似せども、その信念には遠く及ばず。目を背けて来た事実を突きつけられたような気がし、反省点が浮かぶ。

「歯科医療の本質」＝「生涯自分の歯で食べさせる」

メンテナンスが一般化して来た「今」だから、その本質が問われる。

他院でメンテナンスを受けて来たけれど口腔内がどんどん悪くなると不信感を持って来院される方が時々いらっしゃる。メンテナンスで結果を出さなければ国民の歯科への信頼は大きく失われ、メンテナンスしても結局ダメという評価に繋がってしまう。

そのために、まず自分の診療室では確実に「歯が守れる」知識とスキルが備わっている事。そして、患者に正確にそれを伝え教育する事。さらに、地域や知人にも、診療室を出ても、その啓蒙が必要だ。この小さな積み重ねが、唯一歯科界の現状を変えることに繋がるのだろう。

熊谷先生のセミナー受講生への言葉、「嫌われてもやり遂げなさい。私は嫌われるのが得意だけど、何とも思わないし、何の支障もないから。」自信と強さを感じるこの言葉通りに生きて「やり遂げて」こられた熊谷先生だから、酒田を変え、日本を変えつつあるのだと思う。私たち一人でも多くの歯科医師が同様の気概を持って進んでいければ、日本における「歯科の未来」は大変明るく、国民に尊敬される仕事になり得るだろう。そのためにまずは、足元からブレずに固めて行きたいと強く感じた。